



平成27年9月

第55号

荒川区立南千住第二中学校

(題字:校長 齊藤 進)

ナンちゃん・ニーくん



希望の架け橋

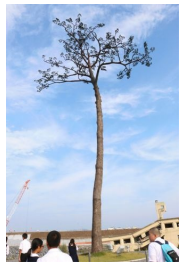
～ 荒川区中学校防災部釜石市被災地派遣訪問記 ～
校長 齊藤 進

8月3日、4日に荒川区の中学生20名を引率して宮城県と岩手県の被災地を訪問しました。2日間の訪問では知られざる真実に触れることができ、多くの感動体験を得ることができました。

初日に訪れた宮城県南三陸町旧防災対策庁舎は、職員の遠藤未希さんがマイクで町民に避難を呼びかけながら自らは津波の犠牲となった場所です。未希さんの必死の呼びかけで多くの町民が助かりました。私たちは遠藤さんの冥福を祈り献花しました。今でも献花に訪れる人が絶えません。この尊い行為は埼玉県の公立中学校・高等学校で使われる道徳の教材にも掲載されています。未希さんの名前は、未来に希望をもってほしいとの両親の願いが込められていたそうです。遠藤未希さんが、最後まで希望を捨てず、マイクで避難を呼び続けたこの防災対策庁舎は、現在、外階段の手すりが折れ曲がり鉄骨だけの姿になっています。遠藤さんの無念さが伝わってくるようで生徒たちもその場をなかなか去ろうとはしませんでした。

岩手県陸前高田市にある奇跡の一本松と対面したときの感動は忘れられません。未来に生きる希望と勇気をもらいました。周囲は盛り土を行うためのベルトコンベアが縦横無尽に走り、地元の小学生から「希望の架け橋」と命名されました。ベルトコンベアが稼働する音は復興の音と感じました。

宿舍のホテルでは夜、語り部の方からお話をうかがいました。自ら撮影された津波の映像には言葉もありません。津波はすべてを飲み込みながら午後3時過ぎの第1波から午後11時過ぎの第7波まで襲ってきたそうです。釜石東中の生徒は鵜の住小学校の児童の手を握りながら、第一次避難場所の「ございしょの里」からさらに第二次避難場所の「やまざきデイケアサービスセンター」に避難しました。第一次避難場所から避難した30秒後にそこを津波が襲ってきました。まさに間一髪そのものでした。その夜、釜石東中の生徒は避難所まで1本1.5kmもあ



る真っ暗闇のトンネルを2本、計3kmを片手は小学生の手を握り、片手はトンネルの壁を触りながら避難したそうです。その時の恐怖は想像を絶するものに違いありません。

2日目に訪れた釜石東中学校では大阪市立上町中学校を交えグループディスカッションが行われました。防災ベストに身を包んだ荒川区の中学生は立派に意見を発表しました。また、釜石東中の取り組みから「想定にたよらない」「その時その場で最善をつくすこと」「率先して避難する人になる」などを学びました。震災当時間一髪津波をまぬがれ避難した小学生だった生徒から当時の苦難の様子を直接聞くこともできました。そして何より釜石東中学校の生徒の目の輝き、あいさつの素晴らしさ、礼儀正しさ、大人のようなしっかりとした考え、堂々とした意見発表など、震災に負けず懸命に立ち直ろうとする姿から私たちは大きな勇気と元気をもらいました。



このように被災地に行かなければ知りえない多くのことを学ぶことができました。そして改めて震災の悲惨さを肌で感じ、震災の教訓を後世に伝えていかなければと思いました。今、私たちにできることは何でしょうか。それは被災地に關心をもち続け、復興を願い、私たちに何ができるかを考え、防災について意識を高めることです。ベルトコンベアだけではなく私たち一人一人が手を携えて被災地に暮らす人々との「希望の架け橋」になる決意をもちたいと思います。

「災害に強いまちづくりは、人づくりから」ということを常々思っています。派遣生徒一人一人がこの事業を通して防災意識をしっかりともち、地域の担い手になることを期待します。最後になりますが、このように貴重な機会を与えていただきました荒川区長西川太一郎様、並びに荒川区、荒川区教育委員会、学校を挙げて歓迎して下さり生徒同士の交流を深めるためにご尽力いただきました岩手県釜石市立釜石東中学校、大阪市立上町中学校、そして語り部としてご協力いただきました瀬戸様、資料提供をいただきました埼玉県教育委員会の皆様にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

荒川区中学生被災地派遣

この荒川区中学生被災地派遣には区内各中学校からそれぞれ2名が派遣されました。南千住二中の代表として参加したのは2年2組男子と2年3組女子の2年生2名です。派遣団の団長は本校・南千住二中の 齊藤 進 校長先生が務めました。

参加した2人はまだまだ十分とはいえない復興の状況を目の当たりにし、胸が詰まる思いでした。また、釜石東中の生徒にいろいろな体験談を聞き交流する機会もありました。釜石東中の生徒の意識の高さに驚きました。2人は、学んだ多くのことをまとめ、荒川区役所で9月1日(火)に行われた報告会で、区長さんをはじめ、たくさんの方々の前でたいへん立派に報告しました。今後の地域防災に大きな役割を担ってくれると思います。



「南三陸町防災対策庁舎」への献花の順番を待つ南千住二中代表の2人

レスキュー部

夏季防災訓練

夏休み後半の8月21日(金)、南千住二中レスキュー部は夏季防災訓練を行いました。今回の防災訓練は、万が一、大災害に見舞われたときに南千住二中が避難所となることを想定し、実際に避難所の設営をし、どのように運営するかを訓練することが主な目的です。

午後1時30分レスキュー部員に招集がかかりました。順次学校に集まり始め、午後2時には参加予定者がほぼ集合しました。開校式の後、5～7名程度にグループ分けが行われました。アリーナの避難所設置、炊き出し、高齢者誘導、受付などに振り分けられました。ただし今回は、細かい仕事分担はせず、必要なことを自主的に行うことも目的の1つでした。その目的どおり、部員たちは準備も片付けも自主的に、積極的に動いていました。その結果、訓練後の撤収も速く、予定より1時間も早く午後7時過ぎに解散となりました。大変頼もしい姿でした。

今回参加したレスキュー部員は127名。このようすは荒川ケーブルTV、NHKなどの取材を受け、NHKでは午後6時10分からの「首都圏ネットワーク」で近く放映される予定(放映日未定)です。レスキュー部の活躍は、ますます世の中の注目を集めています。



簡易ベッドの組み立て



雨の中高齢者避難誘導



間仕切りを使った生活スペース

消防庁から感謝状

南千住二中が東京消防庁から表彰されました。これは、レスキュー部の活動や救命救急講習の受講、また、学校全体の防災に対する取り組みや意識の高さに対して贈られたものです。

9月9日(水)午後、東京消防庁荒川消防署の平澤正臣署長さんが直接ご来校され、校長先生に感謝状が伝達されました。この感謝状は東京消防庁救急部長からのもので、大変栄誉なものです。

普段の活動がこのような表彰されることは私たち南千住二中の誇りです。これを機に、ますます防災の意識を高めていきましょう。



校長室で感謝状の伝達



JRC三首都交流会

7月27(月)から8月1日(土)までの6日間にわたり、青少年赤十字(JRC)三首都交流会が行われました。この三首都交流会は日本・東京、韓国・ソウル、中国・北京、それぞれの都市のJRC中学生代表が集まり、活動を報告しあったり、交流を深める事業です。今年、東京を会場にして行われました。東京都の代表は10人、ソウル、北京からも中学生それぞれ10名が来日しました。南千住二中からは2年2組男子と2年3組女子の2人がその代表に選ばれ約1週間のプログラムに参加しました。

交流会は主に日本赤十字社東京支部の建物で行われ、各国の文化の紹介や活動内容の交換、時には料理の紹介など多岐にわたりました。また、今年、東京(日本)がホスト国だったため、浅草(スカイツリー)や大江戸温泉、秋葉原の献血センターなど東京の有名な観光地や文化施設などの見学も行いました。東京での開催ということで、過去にこの交流会に参加した南千住二中の卒業生もお手伝いとして参加しました。

はじめは言葉も通じにくく苦労しましたが、6日間の交流を通し、言葉や文化の違いという壁も越え、互いを理解することができました。国際理解、国際協力の重要性を改めて感じる事ができました。

6日間の交流で確かに心がよった“仲間”たち



都・区JRCトレセン

8月6日(木)から8日(土)に、JRC荒川区リーダーシップトレーニングセンター(通称・トレセン)が清里高原学園で行われました。また8月11日(火)から14日(金)には東京都のJRCトレセンが山梨・富士緑の休暇村で行われました。

区のトレセンには3年3組女子が南千住二中の代表として、都のトレセンには1年1組女子2名、1年2組女子2名、1年3組男子2名の1年生計6名が荒川区の代表として参加しました。

「トレセン」は文字通りJRC活動のリーダーを養成するための研修会で、荒川区・東京都で活動する中学校のJRCメンバーの代表が集まり行われるものです。

研修の中では、救急救命法や傷病者搬送、炊き出し実習、屋外レクリエーションの企画・運営、メンバー同士の交流などが行われました。南千住二中からの参加者は、皆、大変意欲的に活動しました。このトレセンで経験したことは、今後のJRC活動にさらに弾みをつけるものとなりました。



ひもの結び方を学ぶ



朝礼では自ら進んで発表

道徳授業地区公開講座

9月12日(土)授業公開日の3校時は道徳授業地区公開講座が行われました。今回の授業のテーマは、1年生「強い意志」、2年生「他を認め他に学ぶ」、3年生「家族愛」



2年生 アリーナで新聞紙の塔づくり

でした。1年生は「紙の上の名ランナー」、3年生は「貨物列車が運ぶもの」(いずれも荒川区道徳教育郷土資料集より)という資料を使い、また、2年生は新聞紙を使った塔作りを通してアリーナ(体育館)で活動的に道徳の学習をしました。

道徳の授業はたくさんの保護者や地域の方々にご参観をいただきました。授業後に行われた協議会では、中学校における道徳教育の重要性を改めて確認させていただきました。ご参観、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

1年生 タブレットも使い意見交換



3年生 郷土資料の元になった独自教材を使用

わくわく街歩き探検隊

9月13日(日)、毎年恒例になった「わくわく街歩き探検隊」にボランティアガイドとして、南千住二中の生徒が参加しました。ガイドを務めたのは3年生5人、2年生12人の計17名です。南千住検定の有級者がほとんどで、回向院、延命寺、日枝神社、円通寺、千住大橋、千住火力発電所跡(南千住二中)6カ所の史跡・文化財を手分けをして地域を巡ってきた小学生に説明をしました。南千住二中の玄関にある片目の大緋鯉、千住大橋の大亀や発電所模型も見学地の1つになっています。

昨年度、現2年1組男子の保護者から寄贈された学校カラー「セルリアンブルー」のたすきを肩から掛け、目を輝かせた小学生に、分かりやすく丁寧に説明をしていました。「さすが地域を語る南二中生」と、会を主催する方々からも毎年お褒めの言葉をいただいています。

〔中学生ボランティアガイド〕

3年1組女子2名、3年2組女子1名、3年3組女子2名、2年1組女子2名、2年2組女子2名、2年3組男子2名、女子6名

計17名



千住大橋で芭蕉の説明



日枝神社で



寄贈されたたすきを肩から掛けて

グループディスカッションと模擬投票

3年生社会科 選挙模擬授業

9月3日(木)5,6校時、3年生は全クラスで選挙に関する内容の社会科の授業を行いました。この日は、区の選挙管理委員会の方々にご来校いただき、選挙に関するグループディスカッションや本物の記載台、投票箱などを用いた模擬投票を体験しました。南千住二中では、9月28日(金)に生徒会役員選挙も予定されています。ここでも毎年、本物の記載台、投票箱が使われる本格的な選挙が行われます。日本では近く、18歳になると選挙権が与えられる動きになっています。そのためにも選挙に関心を持ち、責任をもって投票する姿勢が必要です。その意味でもとても大切な授業でした。



吹奏楽部

東京都中学校吹奏楽コンクール **金賞**



南千住二中アリーナでの最終調整のようす(コンクール会場は撮影禁止)

夏休み中に東京都中学校吹奏楽コンクールが行われました。南千住二中吹奏楽部はコンクール5日目の8月6日(木)B組、府中の森芸術劇場ウィーンホール、午前中最後に登場しました。3年生にとっては目標としていた最も重要なコンクールでした。

ここ数年、惜しいところで逃してきた金賞を今年度はみごと獲得。悲願を達成しました。審査発表の「荒川、南千住二中、**ゴールド、金賞**」のアナウンスにどの部員も喜びの歓声と涙に包まれました。3年間の努力が実を結んだ瞬間でした。

吹奏楽部の皆さんおめでとうございます。



喜びの吹奏楽部
府中の森芸術劇場前で

P T A ソフトボール大会 **準優勝**

夏休み最後の8月30日(日)に区内中学校対抗P T Aソフトボール大会が行われました。南千住二中P T Aもこれまで他校との合同チームで参加してきましたが、今年度は単独チームで出場しました。保護者、教職員そして、前P T A会員など選手・応援を含めて約25名が参加しました。時に真剣に、時に笑いもあり1回戦から白熱した試合が繰り広げられました。気づくと決勝に進出。惜しくも優勝は逃しましたが、みごと**準優勝**を飾りました。おめでとうございます。



小雨の中 大活躍の面々

1年生

清里移動教室

2学期始業式の翌日、

9月2日(水)から4日(金)までの2泊3日、1年生の清里移動教室が行われました。夏休み明け直後で十分な準備時間がありませんでしたが、「ENJOY 協力 最高な3日間」というスローガンをかけたこの移動教室は、大成功を収めました。

初日はバスで移動し清里をめざしました。途中2組のバスが故障し、4組のバスで休憩場所に移動し、その後1組、3組のバスに分乗するなどのハプニングはありましたが、大きな混乱もなく、予定していた「**美し森オリエンテリング**」を行いました。前日までの雨でコースはべちゃべちゃで、泥だらけになりながらも途中のポストや南千住二中オリジナルポストの楽しい問題を解きながら、全部の班がゴールしました。ゴールの美し森展望台でのソフトクリームは格別でした。夜はレク係が準備したレク大会で盛り上がりました。



風船爆弾ゲーム

2日目は車山～八島湿原のハイキングを予定していました。バスで移動し、車山山頂まではリフトに乗りました。急斜面を上がるリフトに気持ちも高揚しました。山頂に到着すると強風と寒さに驚きました。しだいに霧に包まれ、自然のすごさを感じました。そのため、コースを少し変更して班行動は見合わせ、車山肩方面に下山し、バスで八島湿原に向かうことにしました。霧ヶ峰高原の名の通り、八島湿原は霧に包まれ、幻想的でした。少し遅めの昼食をとり、宿舎に戻りました。この日の夜は実行委員会主催のドッチボール大会、そして、校長先生が「イリュージョンショー」を披露してくれました。

3日目は青空がのぞく天候になりました。学園での朝食、退園式を済ませ「**笛吹川フルーツ公園**」に向かいました。フルーツ公園では水上アスレチックや楽しみにしていたお土産の購入などをしました。青空の下緑の芝生で昼食を取った後、帰路につきました。



3日目は晴天 水上アスレチック

学校に戻っての退園式では、実行委員長で学年委員長でもある1年4組女子が「この清里移動教室では、人とのつながりなど、多くのことを学びました。今後お互いを刺激し合いながらよりよい学校生活を送りましょう。」と、素晴らしいまとめをしてくれました。1年生一人一人にとって、また、学年という集団にとって大きな成果をあげた3日間でした。



清里のバスも何のその



山道を協力して歩く



ソフトクリームは格別



リフトで車山山頂へ

部活動の活躍

吹奏楽部 快挙!

《吹奏楽部》東京都中学校吹奏楽コンクール 金賞

夏休み 運動部も頑張りました 今年の夏休み前半は猛暑...いや、酷暑。その中で運動部も練習に励みました。肉体的にも精神的にもそして技術面でも大きく成長しました。

《陸上競技部》通信大会(8月)、ジュニアオリンピック大会(9月)に、走り高跳び2選手が出場。ジュニアオリンピック大会では2年2組男子が**第2位**、2年3組女子が**第8位**、また、八王子T&Fトライアル(8月)では、上記2年2組男子が**178cm**を跳び大会新記録で**第1位**、2年3組女子が**148cm**で**第2位**、さらに、足立陸上競技大会(8月)では両選手が共に**第3位**、走り幅跳びに出場した2年2組男子が**5m34cm**を跳び**第8位**入賞という素晴らしい結果でした。

《ソフトテニス部》5・6ブロック合同研修大会に参加。女子団体戦は**ベスト16**に進出、男子個人戦でも2年2組男子2名のペアが**ベスト16**に進出しました。区民大会では、3年2組、3年3組の男子ペアが**第3位**に入賞しました。

《サッカー部》毎日炎天下で厳しい練習に耐え、新人シード権大会に臨みました。2回戦 引き分けPK戦で惜敗。本戦(新人大会)に期待します。

《バスケットボール部》夏休み中ほぼ毎日の練習に励みました。シード権大会、新人大会に臨みます。

《バレーボール部》新人シード権大会に向けた荒川区練習会で全体で**3位**の成績でした。シード権大会では惜しくもシード権を逃しましたが本戦(新人大会)に期待できる内容でした。

《水泳区民大会》本校に水泳部はありませんが、区民大会に出場。3年3組男子が50m背泳ぎで**第1位**、3年2組女子3名、3年3組女子1名の4人のチームが200mリレーで**第3位**の成績を収めました。

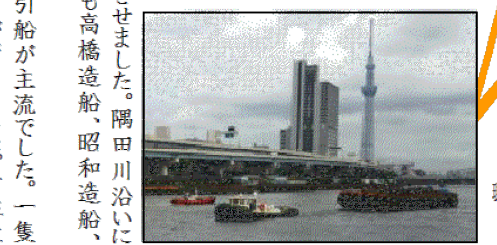
《体操競技》本校には体操部もありませんが、1年4組男子がクラブチームでの成果を大会で発揮。個人**東京都12位**の好成績を収めました。

南千住マスターのコーナー

昭和初期まで、隅田川の両岸には「ボンボ」という心地よい音が絶えず響いていました。時代と共に鉄道やバスなど陸上交通の発達でその役割を終えますが、現在でも観光用の「水上バス」などに姿を変え、隅田川の水上交通が残存しています。また、埼玉県南部へのガソリンなどの運搬手段として隅田川を行き交っています。この方法は一度にタンクローリー約30台分を運搬でき、経済的にも環境への配慮としても有効な手段となっています。埼玉県南部のガソリン価格が安いのもこの事が要因の一つといわれています。

さらに、首都圏での災害発生時にも有効な交通手段として見直されています。

前号では隅田川の「渡し」を紹介しました。この「渡し」は対岸へ渡るためのいわば川を「横」に移動する手段です。隅田川下流には「縦」に移動する水上交通も存在していました。「白蒸気」「青蒸気」と親しまれていた蒸気船がそれです。主に千住大橋と吾妻橋間をうなっていました。この蒸気船の動力は焼玉エンジンで、その特有の駆動音からボンボン船と呼ばれていました。明治18(1885)年に隅田川汽船会社が白い船体の「白蒸気」の運行を始め、明治33(1900)年には千住吾妻汽船株式会社が青い船体の「青蒸気」を造船し、運行させました。隅田川沿いは最盛期に50余りの造船所があり、南千住にも高橋造船、昭和造船、高林造船の3軒が創業していました。



南千住の交通と産業 その5 『白蒸気と青蒸気(ボンボン船)』

現在でも合船を引き隅田川を行く

